

令和3年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団	
施 設 名	足利市民プラザ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	27,648	(千円)
	公 演 事 業	11,340 (千円)
	人 材 養 成 事 業	8,148 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	8,160 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	文化芸術の現代版「足利学校」～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利市制100周年記念事業 足利ミュージカル第8回定期公演 市民参加型ミュージカル「あしかがものがたり」	令和3年11月7日	演目：「あしかが夢物語」 出演：足利ミュージカルおよび 研究生、市民参加者 ほか	目標値	260
		足利市民プラザ 文化ホール		実績値	614
2	文化芸術の現代版「足利学校」～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利市制100周年記念事業 足利オペラ・リリカ第8回定期公演「椿姫」	令和4年1月23日	演目：G. ヴェルディ / 椿姫 出演：大隅智佳子、足利オペラ・リリカ、市民参加合唱団 ほか	目標値	200
		足利市民プラザ 文化ホール		実績値	279 ※
3	足利市制100周年記念事業 N響プロジェクト 2021	令和3年10月10日	曲目：エグモント序曲 ほか 出演：指揮・川瀬賢太郎、ソリスト・佐藤晴真（チェロ）	目標値	330
		足利市民プラザ 文化ホール		実績値	584
4	足利市制100周年記念事業 ベルリン・フィルハーモニー オーボエ・カルテット with 佐渡裕	—	※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止	目標値	580
		—		実績値	— ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	文化芸術の現代版「足利学校」～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利ユースオーケストラ 2021	令和3年4月10日～ 令和4年3月19日	曲目：バッハ / 小フーガ ト短調、エルガー / 威風堂々 ほか 指揮：工藤俊幸、統括：風岡優	目標値	75
		足利市民プラザ別館 ほか		実績値	48 ※
2	文化芸術の現代版「足利学校」～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利ミュージカル研究科第10期	令和3年6月5日～ 令和4年2月20日	演目：『銀河鉄道の夜』ほか スタッフ：小嶋希恵、秋葉敦子、三橋奈月、保々あず美 ほか	目標値	30
		足利市民プラザ別館 ほか		実績値	33
3	文化芸術の現代版「足利学校」～アートでつなぐ、学びのこころ～ 足利オペラ・リリカ 研究科第10期	令和3年6月9日～ 令和4年3月16日	曲目：G. ヴェルディ / 歌劇<<シモン・ボッカネグラ>> ほか スタッフ：大隅智佳子 ほか	目標値	6
		足利市民プラザ別館 ほか		実績値	4

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	小中学校芸術教室・鑑賞プログラム 小学校音楽教室	令和3年 6月3日、4日	曲目：スッペ / 軽騎兵序曲 ほか 指揮：田部井剛 演奏：足利カンマーオーケスター	目標値	23校
		足利市民会館 大ホール		実績値	15校 ※
2	小中学校芸術教室・鑑賞プログラム 中学校音楽教室	令和3年 6月1日、2日	曲目：ビゼー / カルメン組曲 ほか 指揮：田部井剛、演奏：足利カンマーオーケスター	目標値	13校
		足利市民会館 大ホール		実績値	9校 ※
3	小中学校芸術教室・鑑賞プログラム 小学校（低学年）演劇教室	—	※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止	目標値	23校
		—		実績値	— ※
4	小中学校芸術教室・アウトリーチプログラム 小学校（高学年）出前コンサート（音楽・伝統芸能）	令和3年5月21日～ 12月21日	出演：足利カンマーオーケスター、 足利オペラ・リリカ ほか	目標値	23校
		足利市内小学校 特別支援学校		実績値	18校
5	小中学校芸術教室・アウトリーチプログラム 小学校（高学年）演劇ワークショップ	令和3年6月28日～ 12月9日	出演：足利ミュージカル	目標値	7校
		足利市内小学校 特別支援学校		実績値	8校
6	子ども伝統芸能総合プロジェクト「地域伝統芸能体験成果発表会」	令和4年1月10日	出演：足利市並びに近隣市（両毛六市）で活動している子ども伝統芸能継承団体	目標値	入場者数 350名・ 参加者数 80名
		足利市民プラザ 文化ホール		実績値	入場者数 240名・ 参加者数 70名 ※
7	足利カンマーオーケスター ファミリープログラム	令和3年12月25日 令和4年1月30日 令和4年2月26日	曲目：モーツァルト / アヴェ・ヴェルム・コルプス、楽器紹介 ほか 出演：足利カンマーオーケスター	目標値	600
		児童養護施設ほか		実績値	73 ※

8	足利オペラ・リリカファミリープログラム	令和3年7月25日～ 令和4年2月16日	曲目：デンツァ / フニクリ フニクラ、おしゃべりコーナー ほか 出演：足利オペラ・リリカ	目標値	280
		足利市内公民館 ほか		実績値	143 ※
9	足利ミュージカル 出前3世代ミュージカル劇場	—	※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止	目標値	50
		—		実績値	— ※
10	足利市民プラザ附属シニア劇団「燦 SAN」	令和3年6月20日～ 令和4年2月27日	演目：煙が目にしみる ほか 出演：足利市民プラザ附属シニア劇団「燦 SAN」ほか	目標値	1,045
		足利市民プラザ文化ホール ほか		実績値	555 ※
11	第35回人形劇子どもフェスティバル	令和3年7月4日	出演：燕屋、ましゅ&Kei、保育者ユニットしゃぼん玉、人形劇サークルやじろべえ ほか	目標値	840
		足利市民プラザ		実績値	671

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>当館が下記の3つの場となるようミッションを掲げています。</p> <ul style="list-style-type: none">①文化芸術の創造・鑑賞・体験の場②文化芸術をとおした交流の場③子どものための文化芸術の場 <p>これらのミッションを推進するために、世界最高峰の芸術団体による公演、当館の芸術団体による参加型事業やアウトリーチプログラム、足利市内の学校と当館の芸術団体および地域の芸術活動団体との連携などの地域の強みを活かしています。</p> <p>令和2年度の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、令和3年度は、①文化ホールの空調設備の改修や②小ホールや市内公民館などの小規模なコンサートを中心に計画を立てるなど、感染症対策を講じながら実施しました。しかし、緊急事態宣言や蔓延防止重点措置の期間中は事業計画の中止・変更せざるを得なくなりました（特に一年間を通して実施している人材養成事業は、子どもの参加者が多く、休校のほか学校が課外活動も中止していることから、一部計画の中止や変更を余儀なくされました）。</p> <p>しかし上記以外の事業では、①は換気機能の向上により、NHK 交響楽団や足利ミュージカルの公演を座席 50%の制限を解除して実施することができました。これは足利市との連携により迅速に対応できたものです。②は「0歳もいっしょにはじめてコンサート」や「アウトリーチコンサート」などの未就学児の親子で参加できるプログラムを実施しました。計画の際、広い会場を選定し、子どもが緊張しない程度の少人数に定員を設定したため、ほぼ予定通りに実施できました。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>足利市民アンケート等で2019年から2020年にかけて要望が強くなった「子どもの場が足りない」などの声に応えるべく、令和3年度から新しく「0歳もいっしょにはじめてコンサート」などの未就学児の子ども向けの事業を計7回実施しました。その結果、「未就学児といっしょに楽しめるコンサートはなかなかないので、ありがたい機会でした」「小さな子どもが飽きずに聴けた」などの感想がいずれの回も9割ほどであり、中には次回開催時のプログラムの要望や曲のリクエストなども3割ほどありました。このことから本事業は、地域のニーズに応えることができ、なおかつ、地域の親子から期待されている事業といえます。</p> <p>足利市制100周年記念事業として、当館の芸術団体「足利ミュージカル」による市民参加型公演を実施しました。題材として足利市ゆかりの画家・川島理一郎と田崎草雲を取り上げ、足利市および足利市立美術館の協力を得ました。その結果、約半数の足利市外の来場者に対して、本市の魅力を伝えることができました。また、終演後に足利市長と芸術監督とのアフタートークもあり、アンケート結果でも「足利市や足利市の文化・芸術に関心をもてた」という感想が約半数ありました。このことから本事業は、令和2年度の足利市民アンケート等で挙げた「足利市の PR 不足」という地域の課題に対して応えることができました。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業について】

事業 番号	目標	入場者 数	達 成	アンケート		入場者内訳		達 成
				満足度	成	市内	市外	
1	260	614	○	95.5%	○	35.0%	65.0%	×
2	200	273	○	85.7%	○	45.9%	54.1%	○
3	330	584	○	88.0%	○	57.0%	43.0%	○
					※目標:80%以上	※目標:どちらかが40%以上		

来場者の足利市内・足利市外の内訳は、事業番号1のみ達成できませんでした。しかし、公演の題材が足利市ゆかりの画家である川島理一郎や田崎草雲という地域資源を活用したものであったことから、足利市外の人に対して足利市の魅力を強くPRできました。これは①満足度が95.5%と目標をはるかに上回り、かつ、過去最高値であったこと、②アンケートで約半数が「足利市の歴史・文化・芸術に関心をもった」と回答し、そのうちの32.2%が「足利市の歴史や文化を題材にした公演」を今後とも期待していることから窺えます。

地域資源と連携したことがこのような結果につながったことから、今後とも地域の歴史や美術などの各分野と協力していきます。

【人材養成事業について】

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業番号2のみ参加者数の目標を達成できました(目標:参加者数のコロナ禍前の水準への回帰)。本事業には定員の30名を超える33名の参加があり、小学校一年生から社会人まで幅広い年齢による多世代交流の場となりました。また、講師や足利ミュージカル団員以外に社会人の参加者がおり、高学年や社会人の参加者が子どもの参加者を看ることができたため、新型コロナウイルス感染症対策として会場を分けて事業を実施できたほか、参加定員を超えても子どもの参加者が怪我をすることなく終えることができました。

事業番号1は参加者の約半数が足利市外の子どもでした。コロナ禍で直接会う機会が減ったなかで、本事業があることによって、足利市内外の子ども同士・親同士の交流の場となりました。

【普及啓発事業について】

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の一部が中止や参加辞退があったため、いずれの事業も入場者数の目標は達成できませんでした。しかし、事業番号5および7と8のアウトリーチに関しては入場者の定員を超える回が全7回中2回ありました。今年度から新しく実施した「0歳もいっしょにはじめてコンサート」の開催日時や会場およびプログラム内容に関して、出演者および地元アーティストのほかに参加者の親子から意見を聞くことができ、当初目標としていた意見数(目標35人・実数45人)を超える多様な意見を得ることができました。

今年度の目標達成度合は66.2%でしたが、新規事業が地域のニーズに応えることができたとともに、これまで当館への来場者が少なかった30代以下の親子が参加がみられたことから、今後ともPDCAサイクルを回しながら、本事業を発展させていきます。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業全体が中止となったのは3事業であり、いずれも延期・内容の変更などの調整ができなかった事業でした。それ以外の事業は、日程および会場変更、定員制限などの対策をし、予定と大きな変更なく実施しました(人材養成事業を除く)。

人材養成事業の足利ユースオーケストラは、緊急事態宣言の期間や蔓延防止重点措置期間の中止だけでなく、感染者数の様子を窺ったうえで、団長、参加者の保護者、職員で合意を取りながら練習の中止および再開時期を決めたため、当初計画と1ヶ月を超える大幅な変更がありました。また、緊急事態宣言期間・蔓延防止重点措置期間以外でも、市内小学校・中学校の感染症対策と歩みを合わせて活動を休止することもありました(例:課外活動の中止など)。これは小学校低学年の参加者が多いことから、感染症に対して十二分に警戒を行ったためです。

普及啓発事業は例年足利市内全小学校と全中学校が参加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は希望制となりました。その結果、鑑賞プログラムでは参加学校は6割を超えました。またアウトリーチプログラムは、日程の変更があったものの例年に近い参加希望がありました。このことから、足利市内小学校の文化芸術への参加意欲の高さが窺えます。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成事業の足利ユースオーケストラに関しては、上記で記述したとおり、活動中止期間があったため、当初予定の13,793,000円から決算時の5,611,000円と事業費の変更がありました。差額の8,182,000円は、活動中止による実技指導料と交通費が9割を占めております。

この要因として、コロナ禍における活動計画の大幅な変更が挙げられます。当初は、新型コロナウイルス感染症の影響は縮小するまたは対策を講じながら活動は可能であるという計画を立てていました。しかし実際は、新型コロナウイルス感染症が当初の予想を超えて流行したことにより、事前に得ていた関係者のコンセンサスの修正を余儀なくされました。その結果、先述のとおり十二分な警戒心をもって対応しました。

この要因として、足利ユースオーケストラは年齢層も小学校低学年から高校生と幅広く、足利市内だけでなく栃木県佐野市や群馬県太田市および群馬県桐生市などの広域からの多くの子どもたちが参加していることから、意見が全会一致になることが非常に困難であったことが挙げられます(県により警戒レベルや感染症対策が異なっていたため)。

そのため活動休止期間中は、初心者やレベルアップをしたいという団員に対して1対1の個人練習を実施しました。

上記以外の事業に関しては、事業計画の段階から出演者等と相談しながら積算していることから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、当初の計画通り(変更率約15%以内)に進んだといえます。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【NHK 交響楽団との連携】

足利市は NHK 交響楽団と準・フランチャイズ契約を結んでおります。これにより定期公演だけでなく足利市内小学校や日本遺産「史跡足利学校」でのアウトリーチコンサートなど、地域資源を活用した取り組みをこれまで行ってきました。20年に亘る関係であることから令和3年度の足利市制100周年を契機に、他ではあまり類のない未就学児向けのアウトリーチコンサートを足利市内の幼稚園で実施することができました。結果、足利市で未就学児からあらゆる年代の人が N 響の音楽に触れることができる機会を新たにつくることができました。

【地域に根差した芸術団体】

当館には芸術団体「足利カンマーオーケスター」「足利ミュージカル」「足利オペラ・リリカ」があり、各音楽監督・芸術監督と足利市周辺地域の団員が、公演やアウトリーチのほか、市内小学校・中学校の児童・生徒を対象とした芸術鑑賞会や特別音楽授業、部活動に対するクリニックなど、公演・人材養成・普及啓発活動を総合的に行っています。

令和3年度においては、①「足利カンマーオーケスター」は児童養護施設など音楽ならではのアウトリーチコンサートを実施できました。②「足利オペラ・リリカ」は「椿姫」のリバイバル公演を実施し、大隅千佳子音楽監督が初演時の市民合唱参加者に参加の呼びかけ等を行うほか、開演前に事前レクチャーで初演時との異なる解釈での演出・舞台である旨を説明しました。③「足利ミュージカル」は、足利市ゆかりの画家である川島理一郎や田崎草雲が題材の公演であることから、足利市や足利市立美術館の協力を得ました。これにより、作品鑑賞・資料集め・美術館や作家ゆかりの地を巡ることができ、小嶋希恵芸術監督のもと団員・市民参加者は公演および足利市の歴史・文化の理解を深めることができました。

④「足利ユースオーケストラ」は足利市近隣地域の子どもたちが参加しており、足利カンマーオーケスター音楽監督である風岡優氏を全体総括、山形県交響楽団や群馬県交響楽団の指揮者を務めた工藤俊幸氏を常任指揮者に迎えて活動をしており、音楽への関心や演奏技術の向上だけでなく、音楽を通じた友達づくりおよび保護者同士の仲間づくりを行っています。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により練習回数が減少したため、初心者や演奏に不安がある子どもに対して別途個人レッスンを行うことで、子どもたちのモチベーションを高めるよう努めました。

⑤シニア劇団「燦 SAN」は、文学座・加納朋之氏と青年劇場・佐藤尚子氏のもと、地域のシニア世代と中学生・高校生がいっしょになって作品を創っています。足利市周辺にはシニア劇団がほぼないため、「燦 SAN」が世代間交流の場になっています。令和3年度の公演は足利ミュージカルの団員も出演しており、芸術団体間の交流も行われました。

なお、2011年から定期的に行っている佐渡裕氏による公演と足利市内吹奏楽部クリニックや小学校音楽特別事業は、これまでアウトリーチ先から吹奏楽部の技術向上や児童への特別音楽授業、足利市近隣地域の音楽教員の教育意欲向上等の感想をいただいておりますが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当館は NHK 交響楽団「有馬賞」(2008年)、地域創造大賞(総務大臣賞)(2010年)、文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)(2017年)を受賞した経験を活かして取り組んだ結果、下記のような地域の文化芸術の振興・発展につながったと考えられます。

【公演事業】

「足利ミュージカル」は足利市制100周年記念を機に、足利市ゆかりの画家である川島理一郎や田崎草雲を題材にした市民参加型の公演を開催しました。足利市内の人のほか地域で活動しているアマチュア劇団員も出演したこと、公演のアンケートで「足利市の歴史・文化・芸術に関心をもった」という感想が来場者の過半数に上ったことから、実演芸術だけでなく歴史や美術等の関連分野と連携して地域の文化芸術の振興・発展につながったといえます。

Twitter のインプレッション数(ツイートが Twitter で表示された回数)の平均が 5,497、エンゲージメント数(ユーザーが該当ツイートに反応した数)の平均が334であるなか、公演事業はいずれも平均の2～3倍の数を記録しています。このことから当館への公演事業の関心の高さが窺えます。

【人材養成事業】

当館の芸術団体を講師に迎えて活動している「足利ユースオーケストラ」は、令和3年度は緊急事態宣言や蔓延防止重点措置により活動休止に見舞われましたが、対策を講じた上での練習風景や個人レッスンの様子を、Twitter で公開したところ秋頃のインプレッション数は平均2,772であったものが、年度末は平均3,674 と上昇していました。また、アンケートでも「コロナ禍で練習時間のとれない中とても立派な演奏でした」など、子どもたちの成長に感銘を受けたものがみられました。このことから、地域の人々による子どもたちの音楽活動への関心が広まったと考えられます。

足利オペラ・リリカ研究科は、アンケートにおいて「前期発表会のときより成長がみられた」「初めてオペラを観ました」などが約半数を占めており、研究科の活動を従来応援している地域の人が支えているとともに、オペラ初心者が参加しやすい公演でもあったことから、地域の文化芸術の振興につながっていると考えられます。

【普及啓発事業】

令和3年度から当館の芸術団体による未就学児が親子で楽しめる「0歳もいっしょにはじめてコンサート」を新しく実施しました。「1歳の子どもでも聴くことができた」「未就学児が参加できるプログラムを実施して欲しい」などの感想があり、当館が掲げる「いつでも」「誰でも」「気軽に」参加できる文化芸術の場をつくることができました。

子ども伝統芸能総合プロジェクトは、足利市内では地域伝統芸能の発表機会が少ないことから約20年続けています。令和2年度はコロナ禍により、多くの団体が出演予定を取り下げましたが、令和3年度は出演団体も入場者もコロナ禍以前の7割程度に戻ってきました。出演団体のなかには、開演前にワークショップを実施するものや地域の芸術団体が共同で上演するものなどがみられ、コロナ禍以前より団体同士による自主的な地域の文化芸術の発展・振興が感じられました。

(5) 持続性

自己評価

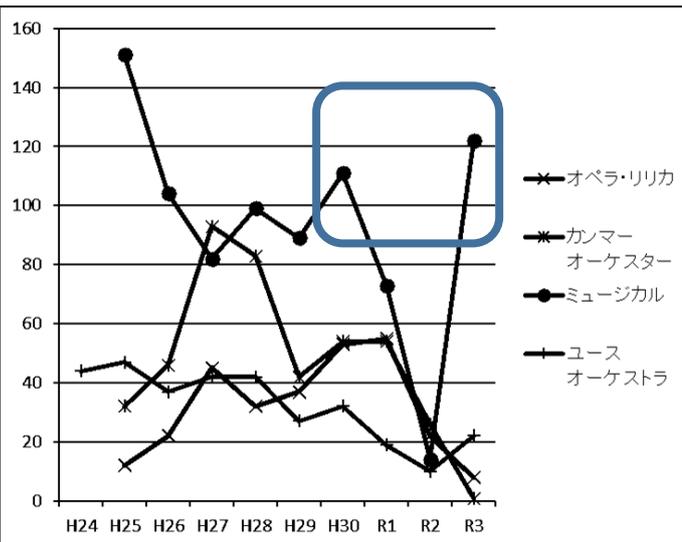
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

これまでの当財団の取組が評価され、指定管理期間が令和4年から令和8年まで新たに更新されました。また、次の指定管理に向けて準備を進めており、継続的な組織活動に取り組んでいます。毎月の足利市とのモニタリング、当館の各芸術団体の市民参画運営委員会に加え、令和3年度から若手職員～中堅職員からなる課を超えた会議を新たに発足し、多角的な視点による事業のPDCAを行っています。

【人事戦略について：事業企画と舞台運営の兼任の利点】

事業企画担当職員が舞台運営も担当することで、スムーズな事業進行に努めています。なかには、地域の芸術団体から「コロナ禍前に利用した記録やその時に担当した職員が当時の舞台図を覚えており、言わなくても舞台がある程度準備できていて、本番までの準備が捗る」などの声がありました。これらの声を受け、今後とも本体制を継続する予定です。

【経営面について：戻りつつあるサポーター】



当館には友の会会員や企業協賛金のほか、定期公演にはリピーター会員、芸術団体にはサポーター会員など、各来場者のニーズに合わせた賛助制度があります。

特に当館の芸術団体「足利ミュージカル」のサポーター会員数は、左図のとおりコロナ禍前より多数の加入があり、地域の人々による団体活動への期待の高さが窺えるとともに、団体活動の継続的な支援が期待できます。

【ネットワークについて：コロナ禍における足利市内小中学校との連携】

足利市内の小中学校の教員で構成された「足利地区小中学校芸術教室研究会」と連携し、文化芸術（音楽・演劇・伝統芸能・狂言）の公演・アウトリーチ・ワークショップを、授業の一環として位置付けて実施しています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により公演プログラムが中止となりましたが、令和3年度は開催を希望する学校が3分の2を超えたため、感染症対策を講じたうえで実施しました。また、アウトリーチプログラムは、令和3年度の参加学校は令和2年度に比べて2倍近くに増加しました。さらに令和4年に向けた会議をおこなったところ、ほぼ全ての学校の参加希望があり、状況がコロナ禍前とほぼ回復しつつあります。この要因として、令和3年度に参加した各学校の様子やアンケート結果が会議の場で示され、コロナ禍における文化芸術活動の必要性や改善されたプログラムの安全性が共有されたからだと考えられます。